

令和2年度 志真志小学校の取り組み

I 研究主題名：

主体的に自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成

～外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動の工夫を通して～

II 研究主題設定の理由

これまでの外国語活動において、本校の児童は外国語の授業に対する意欲が高く、基本的な表現を身に付けてきた。その一方で、外国語によるコミュニケーションに対する意識が低いという課題がある。そこで、外国語科・外国語活動において、教師が外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動を工夫することで、児童がコミュニケーションの大切さを実感し、主体的に自分の考えや気持ちを表現できるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 学年・領域

今年度から外国語の教科化・新学習指導要領の実施がスタートした。高学年では「One World Smiles」、中学年では「Let's try」、各出版社から出されている年間指導計画を基に指導を進める。低学年では、市から提供されている年間計画を基に指導を進める。

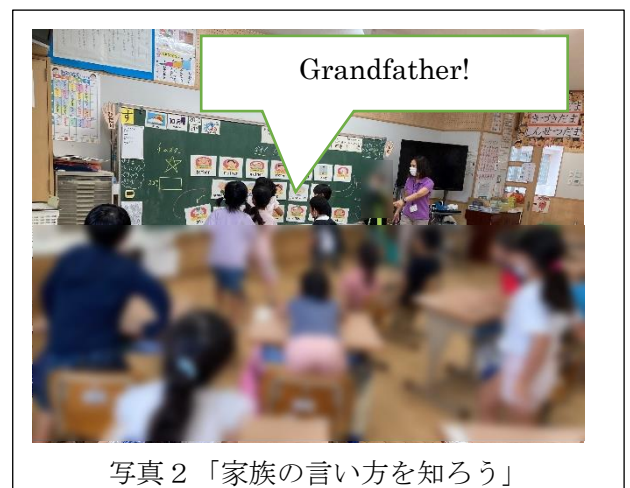
| | | |
|---|---|---|
| <p>低学年の指導内容</p> <ul style="list-style-type: none">・あいさつ、自己紹介・天気、曜日、数・果物や野菜・体の部位・気持ち・色や形・動物や昆虫・行事 | <p>中学年 Let's Try!1,2</p>  | <p>高学年 One World Smiles5,6</p>  |
|---|---|---|

V 各学年の取り組み

1 1学年の取り組み (Topic: 「英語で自己紹介をしよう」「家族の言い方を知ろう」)

英語で自己紹介をし、コミュニケーションを楽しむことをゴールに設定した。教師と児童の活動でインプットをしたあと、「HELLO SONG」の歌にのせて、相手の名前を尋ねたり、「My name is～」とリズムに乗せて自己紹介をしたりすることを楽しんだ(写真1)。

また、そのほかの取組として、LESSON「家族の言い方を知ろう (10月)」では、児童にとって身近なアニメを教材として取り上げ、家族を表す英語表現に慣れ親しんだ(写真2)。



2 2学年の取り組み (Lesson 5 「What fruit do you like? 好きな果物を尋ねよう」)

自分の好きな果物でパフェを作り、どんなパフェを作ったのか紹介する活動を単元のゴールに設定した。教師と児童の活動でインプットをしたあと、児童同士で「What fruit do you like?」「I like～」とアウトプットを繰り返し、好きな果物を伝える表現の定着を図った。それから、リレーやゲームを通して果物の名前を覚えたり、お互いの好きな果物を尋ね合ったりする活動を行った。Final Activity では、自分のパフェを友達と協力しながら発表することで(写真1)、学級の友達のことをさらに知ることができた(写真2)。



写真1 友達と一緒に活動する様子



写真2 好きな果物を伝える活動

3 3学年の取り組み

(Unit 4 「I like blue. 好きなものを伝えよう」、Unit 5 「What do you like? 何が好き?」)

Unit 4 「I like blue. 好きなものを伝えよう」では、これまで学習で好きな色は言えるようになってきた。そのことを活かして、3種類の好きな色を選びオリジナルで描いた虹の色を紹介した(写真1)。「I like blue, red, and yellow. What color do you like?」と自分の虹を見せながら、ペアの友達に自信を持って紹介する様子が見られた。振り返りカードでは、「もっといろんな食べ物やスポーツも英語で紹介してみたい」という意欲的な記述も見られた。

Unit 5 「What do you like? 何が好き?」では、普段生活していて目にするくだものや野菜の単語をチャンツで学んだ。そのあと、チームに分かれてタッチングゲームを行った(写真2)。野菜の名前が思い出せない時は、グループの仲間から「キュウから始まるよ! Cucumber!!!」などと楽しく取り組む様子が見られた。授業の振り返りでは、「私の大好物の～は、なんていうのか知りたいです」と発言するなど、いろいろな食べ物の名前に興味を持っている様子が見えた。



写真1 自分の虹を紹介している様子



写真2 タッチングゲームの様子

4 4学年の取り組み (Let's try2 Unit7 「What do you want? ほしいものは何かな?」)

欲しいものをたずねたり、伝えたりする表現を使って、ピザのオリジナルメニューを紹介し合う活動を単元のゴールに設定した。教師と児童の活動で「What do you want?」「I want ...」などの表現をインプットしたあと、児童同士のペアやグループでミニカードを使ってアウトプットをくり返し、定着を図った。その後、「How many?」の質問や「Nice!」「Wow!」「Good!」などのリアクションの表現を加え、話し手と聞き手が互いにやり取りできるよう活動を工夫した。



What do you want ?

写真 ペアでの活動



How many ?

写真 グループでの活動

5 5学年の取り組み (Lesson7 「I can run fast.みんなのできることを集めよう」)

自分のできることを友達と伝え合う活動を単元のゴールに設定した。教師と児童の活動でインプットをしたあと、児童同士のペアでミニカードを見せながら、「I can...」とアウトプットを繰り返し、できることを表す表現の定着を図った(写真1)。それから、「What can you do?」の質問や、友達の「I can ...」に対するリアクションなどの表現を徐々に加え、自分の気持ちも伝え合うような活動にした。Final Activityでは、自分のできることを互いに伝え合うことで、学級の友達のことをさらに知ることができた(写真2)。



I can play soccer.

写真1 ペアでの活動



I can draw picture.

Nice!

写真2 Final Activity

6 6学年の取り組み

(1) 単元名 Olympics and Paralympics 世界で活躍するスポーツ選手

(2) 単元の目標

- ① オリンピック・パラリンピックの競技名を、聞いたり言ったりすることができる。(知識及び技能)
- ② スポーツ選手を紹介する表現を知って、聞いたり言ったりすることができる。(知識及び技能)

③ シートをつくって、好きなスポーツ選手について紹介することができる。（思考力、判断力、表現力等）

④ 世界で活躍するスポーツ選手をわかりやすく伝えようとしたり、さまざまな選手について知ろうとしたりする。（学びに向かう力、人間性等）

(3) 単元の評価規準 ◎中心領域「話すこと（発表）」

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| <p><知識>オリパラの競技でやってみたい競技を伝え合う言い方や第三者を紹介する言い方（This is ...,He[She] is ...,He[She]）を理解している。</p> <p><技能>やってみたい競技を伝え合う技能や第三者を紹介する技能を身に付けている。</p> | <p>自分や友だちにとってのヒーローについて思いを込めて伝え合うために、そのヒーローの得意なことやできること、人柄・自分との関係などについて、工夫して友達と伝え合っている。</p> | <p>自分のヒーローについて伝えるように工夫しながら紹介しようとしている。</p> |

(4) 単元の指導計画・評価計画

| 時間 | めあて | 評価規準 ◎記録に残す評価、○指導に生かす評価 | 評価方法 |
|--------------|----------------------------------|--|-------------|
| 1 | オリンピック競技やパラリンピック競技について知ろう。 | ○「聞くこと」【知】 オリンピック・パラリンピックの競技を知り、競技名について理解している。 | 行動観察 |
| 2 | オリンピック・パラリンピックで挑戦したい競技について尋ね合おう。 | ○「話すこと（やり取り）」【思・判・表】 挑戦したい競技について尋ね合う場面において、オリンピック・パラリンピックの競技について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 | 行動観察 |
| 3 | スポーツ選手のできることや得意なことを伝え合おう。 | ○「話すこと（発表）」【思・判・表】 オリパラ競技の選手を紹介する場面において、その選手の得意なことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。 | 行動観察 |
| 4 本時 | 自分だけのヒーローについて話そう。 | ○「話すこと（発表）」【知】 自分のヒーローの得意なことやよさについて、伝える技能を身に付けている。 | 発表観察 |
| 5 | 自分だけのヒーローについて話そう。（深める） | ◎話すこと（発表）【思・判・表】【主】 自分のヒーローをくわしく紹介するために、ヒーローについて伝えたい内容を考え、伝える表現を選び、紹介している。（しようとしている。） | ワークシート、発表観察 |
| 6 | My Hero シートを書こう。 | ○書くこと【思・判・表】 自分だけのヒーローを紹介するために、シートにヒーローの名前、できることや得意なこと、よさを書き写している。 | ワークシート |
| 7 | My Hero について伝え合おう。 | ◎話すこと（発表）【技】 ・自分のヒーローについて、聞き手に伝わるように工夫して伝える技能を身に付けている。 | ワークシート、発表観察 |
| CAN-DO check | | ・聞き手にわかるように工夫して伝えようとしている。 ・話し手が話しやすいように、うなずきや適切な反応をしながら聞こうとしている。 | |

(5) 本時の指導「Olympics and Paralympics」（4／7時間）

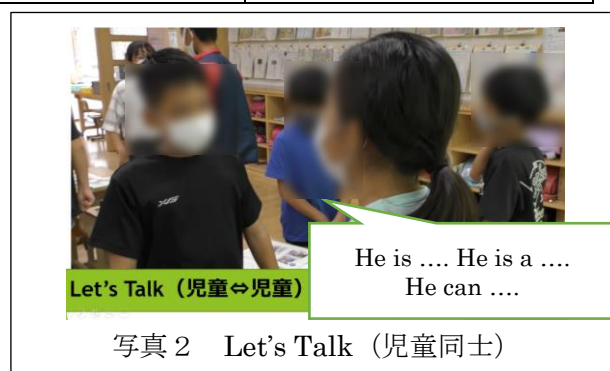
① ねらい 自分のヒーローの得意なことやよさについて伝え合う。

② 本時の評価規準

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 評価の観点 | 話すこと（発表）【知識】 |
| 評価規準 | 自分のヒーローの得意なことやよさについて、伝える技能を身に付けている。 |
| 評価方法 | 授業内：行動観察 授業後：振り返りシート |

③ 本時の展開

| 過程 | 学習活動・内容・発問等 | 予想される児童の反応 | 指導上の留意点、評価等 |
|----|---|---|---|
| 1 | あいさつ・ルール | | |
| 2 | Small Talk 好きなスポーツ選手について話す。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> I like ○○. He/ She can He/ She is ... </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ Why?とリアクションをしながら話す。 ・ | <ul style="list-style-type: none"> ・ FT と HRT、教師と児童のやり取りを経て、児童同士のやり取りにつなげる。 |
| 3 | Teacher's Talk FT と ALT のヒーローについて話す。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ Final Activity や本時の My Hero について話す表現につながるような言語材料を選択する。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 自分だけのヒーローのことを話そう。 </div> | | |
| 4 | Let's Watch | <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ選手以外の人物のできることやよさを表す表現を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような人物か児童と確認しながら話す。 |
| 5 | Let's Play "Pointing Game" He /She is ---. He/ She is a ---. He/ She can ---. He/ She is good at ---. | <ul style="list-style-type: none"> ・ "He/ She isHe/ She can...."の表現を使う。 ・ でてきた人物のできることやよさについて話す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な表現を使って、徐々にその人物を特定できるように話す内容を工夫する。 ・ 児童の言葉から既習表現の活用の仕方に気づかせる。 |
| 6 | Let's Think | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にとってのヒーローの存在について考える。 | |
| 7 | Let's Talk My Hero について話す。 (1) ペアトーク (前半) (2) 中間評価 (3) ペアトーク (後半) | <ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲットセンテンスを使って話す。 ・ リアクションしながら聞く。 ・ どのような表現ができるか、考えながら話す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 話すときに困ったことなどを学級全体で共有することで、後半のペアトークに生かす。 |
| 7 | Wrap up | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 話すときに困ったことなどを学級全体で共有することで、後半のペアトークに生かす。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> まとめ He/ She can...,He/She is good at....を使って話すことができる。 </div> | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童とやり取りしながらまとめる。 |
| 8 | 振り返り | | <ul style="list-style-type: none"> ・ Teacher's Talk で見通しを持たせる。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 振り返り ○○が言えた。○○を言うのが難しかった。 </div> | | |
| 9 | 次時の予告 自分だけの My Hero についてさらに話すことを伝える。 | | |



VI 成果と課題

1 成果

- (1) 「名前の言い方」や「天気の様子」「曜日」「気分」の言い方など、身近な事柄に関する英語表現を繰り返し聞いたり言ったりすることで、積極的に発話したり簡単な質問に答えたりする児童が増えた。
- (2) 質問やリアクションを交えて対話をする中で、話し手と聞き手が互いに相手意識をもち、主体的にコミュニケーションを楽しむ様子が見られた。
- (3) ポインティングゲームやメモリーゲームなど、徐々にレベルアップしながらインプットとアウトプットを繰り返すことで、取り上げている話題や自分の伝えたい内容に関する英語表現を使って、自分の考えや気持ちを伝え合う児童が増えてきた。

2 課題（改善策）

- (1) 自分の考えや気持ちを表現することに苦手意識を持つ児童がいる。取り上げている話題に対してどのように考えるとよいか、思考の仕方を指導する。また、**Small Talk** などの活動を意図的に設定し、既習表現の定着を図る。
- (2) 英語を言うことに意識が向いて、コミュニケーション自体を楽しむことができない児童がいる。目的意識と相手意識を高める指導を工夫し、互いに伝え合うことの楽しさを実感させたい。